

木材産業活性化講演会開催される！

演題：林業・木材産業の「これまで」と「これから」

— “木材加工・利用の「これまで」とCLTを初めとする

最先端技術等「これから」を語る” —

講師：山佐木材(株) 代表取締役社長 佐々木幸久 氏



岐阜県木連が一昨年度から岐阜県と共催して開催してきた木材産業活性化講演会が、平成29年9月29日（金）

15時30分より岐阜都ホテルにて開かれ、総参加人数は102名となった。

最初に主催者である県林政部と岐阜県木連からそれぞれ長沼林政部次長と丸山県木連会長から挨拶があった。

最初に主催者である県林政部と岐阜県木連からそれぞれ長沼林政部次長と丸山県木連会長から挨拶があった。

木材産業活性化講演会の本年度の講師は、山佐木材（株）代表取締役社長 佐々木幸久氏（日本集成材工業協同組合理事長）をお招きした。講師紹介は、本年5月まで会長であった後藤直剛氏が行った。講演内容は、次のようであった。

宮崎大学や鹿児島大学等と林業・木材産業分

野の研究を行っており、経営者としての目線だけでなく、学術的な考え方も交え林業・木材産業の未来をどう盛り上げていくか、真剣な取り組みを熱く語られた。

ツーバイフォー工法、大断面集成材構法に次ぐ、新しい材料であり構法であるCLTの実績に数多く携わってこられた。その中で、木造で超高層ビルに木材を使用できないかという発想が生まれ、集成材の梁上端に異形棒鋼を挿入し、20m以上の長大スパンを実現するというSAMURAIについては木材関係者のみならず、建築関係者にとっても大変興味深い最先端の内容であった。

またドイツやカナダを参考に、高齢級・大径木材の価値を高めるための具体的な提案を行なった。日本の林業・木材産業も復活にむけて、まだまだできることがあると希望を感じさせられる講演内容であった。（藤沢・鍵谷）



講演中の佐々木幸久氏



会場内の様子



展示物